

先輩社員に聞く電気工事の魅力



現場を管理するという、スリルに魅力を感じる

岩本龍生

株式会社電成社
施工管理部

2017年3月卒業 同年4月入社
出身校 青山学院大学理工学部物理学科

―― 何がキッカケで、電気工事業界を知ったのですか。

岩本 4年生になって間もない頃に、たまたま地元（横浜市神奈川区）の友人が電気工事会社への就職を考えているということを聞いて、電気工事会社の存在を初めて知りました。

―― 3年次での就職活動を教えてください。

岩本 2年生の3月頃から大学にはさまざまな企業の方が会社説明会を行うために来ていましたが、やりたいことが特別になかったので、就活の流れに乗ってさまざまな業界知識は得たものの、積極的に就職活動をしていただけではありません。

就職するにあたって特別に何かをやりたい、と考えている学生は少なく、個人的な捉え方ですが、私を含め、ほとんどの学生は、やりたいことが分からないまま就活をしているように思います。会社説明会で出会った企業への就職が正しい、と思い込んでいる学生も多い気がします。

―― 電成社に入社するまでの経緯を教えてください。

岩本 地元の友人が電気工事会社へ就職する話を聞いて以来、街中を歩くなかで電気工事会社の看板に目が留まることが増えました。当時、自宅からアルバイト先まではバイクで通っていましたが、ちょうど電成社の前の道路を毎日のように通っていたので、友人から話を聞く以前から、名前だけは知っていました。

電気工事会社への就職活動をするにあたっては、インターネットでいろいろと会社を探し、東京に本社がある電気工事会社2社と電成社の3社に絞り込み就活しましたが、自宅から近い方が通勤時間を気にすることがないと思い、電成社への入社を決めました。

―― 就活中に電気工事会社のホームページを見て、電

気工事をどのようにイメージしていたのですか。

岩本 今でこそ、電気工事には現場を監督する技術者（現場代理人）と、実際の施工を行う技能者（電工）がいることを理解していますが、当時は、電線を張り、照明器具を付けたりする、職人さんの仕事というイメージが強かったです。

―― 電成グループには、現場管理業務の電成社、施工会社の電成テクノ、メンテナンス工事を手掛ける電成リエンジニアがあります。

岩本 入社後6カ月間は電成テクノで電工を経験しました。体力的に辛い部分はありましたが、身体を動かすのは好きですし、実際に作業していても達成感の連続で、あっという間に時間が過ぎていたので、充実感がありました。ただ、自分自身の体力面を考慮して、電工ではなく、現場代理人の道を選びました。

―― 入社して4年目を迎えていますが、現在どのような現場を担当しているのですか。

岩本 これまで上司の下で4現場をみてきましたが、初めて一人となって、工期8ヶ月、請負金額6000万円の病院の新築工事を担当しています。もちろん上司や先輩のサポートを受けながらの仕事ですが、自分自身の責任が伴うことからとてもスリルがあるので、毎日が楽しいです。

―― 電気工事業にどのような魅力を感じていますか。

岩本 現場の仕事は、私ひとりでは何もできません。協力業者の人たちや、いろいろな職種の人たちの支えがなければ現場は進んでいかないので、数多くの現場をしつかりと管理していくことで、自負心とともに、人としての成長も期待できることが、電気工事業の魅力の一つだと思います。